

戦争のない平和な社会いつまでも

8月11日〜15日に市役所で前橋大空襲パネル展

五十八年前の八月五日、本市は大空襲を受けました。これを体験した人も少なくなりましたが、戦争の悲惨さをいつまでも忘れず、次世代へ引き継ぐことが大切です。このために十一日から市役所で前橋大空襲パネル展を開催。戦争で亡くなった人のめい福を祈るとともに、これを機に戦争のない平和な社会の実現について、みんなで考えてみましょう。

焼け野原になった市街地



本市が大空襲を受けたのは五十八年前、昭和二十年の八月五日。翌日に広島市、四日後には長崎市へ原子爆弾が投下されました。そして十五日、日本は無条件降伏し、終戦を迎えたのです。

前橋大空襲で535人の死者

八月五日午後十時三十分、前橋大空襲は照明弾の投下で始まり、続いて若神町に焼夷弾が落とされ、県立第一工業高校（現在の三中付近）と共愛女学校が炎上。市中心部の空襲は一時十五分にも及びました。こうした空襲は九十二機のB29爆撃機によるもの。六百九十一の焼夷弾、十七・六の破砕爆弾、十五・二の一般爆弾

わたしの体験記

黒い雨

長谷川秀雄さん

山王町一丁目

74歳



が投下され、受けた被害は死者五百三十五人、負傷者六百人。被災戸数一万四千四百六十戸、被災人口は六万七千三百三十八人（全市人口の六五・二％）でした。特に多くの死者を出した所は、広瀬川比刀根橋脇の防空壕と細ヶ沢十字路（住吉町一丁目）の水路でした。この防空壕周辺は火の海となり、中にいた人が窒息死しました。また市外へ逃れる人が猛火に巻かれ、水路へ逃げ込みながら、死んでしまったのです。

周辺町村も空襲に

昭和二十九年以降に本市と合併した周辺町村にも、空襲の被害が及びました。上川淵・下川淵・芳賀・桂萱・東・元総社・総社・南橋・木瀬（永明・城南の一部）の各地区を合計すると、死者四十七人、負傷者百四十四人、被災戸数五百一十一戸でした。

めい福祈り

みんなで黙とう

戦争で亡くなった人たちのめい福を祈るために、原爆記念日な

空襲警報のサイレンが、蒸し暑い夜空をついて狂ったように鳴り響く。今夜は前橋の番かなと一瞬思う。床下に掘った穴に家族と潜り込む。静かだ。

突如、B29の爆音が頭上に迫ってきた。急に外が明るくなる。照明弾に続き、焼夷弾攻撃が始まった。もう生きた心地がしない。「利根河原へ逃げろ」という怒鳴り声で穴から出ると、空は真っ赤。逃げ惑う人たちが、名を

呼ぶ人、倒れて動かぬ子どもが泣く。地獄図だ。どのくらいだったろう。もう飛行機の音がしなくなったぞ」という声を聞いた途端、全身の力が抜けた。防空壕から皆疲れきった表情で出てくる。いつまで続くこの暮らし。熱気のためか、灰まじりの雨が降り出した。黒い雨でもいい、もっと降って、戦争を押し流し早く終わりにしてくれ。

どには黙とうをささげましょう。 広島原爆記念日＝8月6日 午前8時15分 長崎原爆記念日＝8月9日 午前11時2分 戦没者を追悼し平和を祈念する日＝8月15日 正午

ご覧ください

市役所でパネル展

前橋空襲などのパネル展を開催します。平和の大切さを、もう一度考えましょう。

日時＝8月11日～15日、午前8時30分～午後5時15分 会場＝市役所1階市民ロビー 内容＝市民から寄せられた前橋空襲など戦争の体験文と写真パネル二十五枚を展示

問い合わせは生活課 890 6237へ。